

つらい虐待証言 女兒に「付添犬」



虐待を受けた子どももの刑事裁判を巡り、公判への同伴が許可された「付添犬」のゴールデンレトリバー＝9月

虐待を受けた子どももの刑事裁判を巡り、関東地方の地方裁判所が、被害を証言する子どもへの精神的負担を減らすため、公判への付き添い犬の同伴を許可していたことが6日、関係者への取材で分かった。裁判関係者によると、精神的負担の軽減を目的とした動物の同伴許可は異例という。子どもが被害者となった事件では、司法手続きでつらい体験を話すことへのストレスが指摘され、負担軽減の取り組みとして注目される。入廷

精神的負担軽減

関東の地裁 異例の許可

したのは専門機関で訓練を受け、「付添犬」として認定を受けた犬。国内では4頭が活動している。

関係者によると、許可されたのは10代の女兒に虐待行為をしたとして、男が児童福祉法違反の罪で起訴された事件。女兒は7月、心のケアのため触れ合いを続けていたゴールデンレトリバーを伴って入廷。当初は出廷自体を怖がっていたが、犬の同伴が許可されたことで証言を決心した。約1時間半の尋問の間、終始付き添い犬を足元に連れていたという。

女兒側は精神状態を示す上

申書や、出廷することで心的外傷後ストレス障害(PTSD)が悪化する恐れがあると、担当医の意見書を提出。裁判所は、付き添い犬とともに女兒の聴取を数回繰り返した。検察官からの申し出や民間団体の訓練記録も踏まえ、同伴入廷を許可した。

厚生労働省や最高検は2015年、証言回数を減らすため、児童相談所と警察、検察の三者が連携し、被害内容を聞き取る「協同面接」の導入を求める通知を自治体や検察に出した。一方、子どもが法廷で証言する際の軽減負担の取り組みは進んでいない。

厚生労働省や最高検は2015年、証言回数を減らすため、児童相談所と警察、検察の三者が連携し、被害内容を聞き取る「協同面接」の導入を求める通知を自治体や検察に出した。一方、子どもが法廷で証言する際の軽減負担の取り組みは進んでいない。

イッターから

一際チーム提供

ブラックホール、大量の物質が集まった超高密度で重力の強い天体。アインシュタインの一般相対性理論から、周囲では時空がゆがんで光さえ脱出できないと予想された。アインシュタイン自身は存在を否定したが、多くの研究者が存在の可能性やその性質について理論を発表してきた。観測も進み、周囲の星の観測や、ブラックホール同士が衝突で発生した重力波の観測などから間接的に存在が示されている。日本を含む研究チームは2019年4月、初めて撮影に成功した画像を発表した。

公判に付き添い犬同伴

地裁許可 虐待事件 子のストレス軽減

虐待を受けた子どもの刑事裁判を巡り、関東地方の地方裁判所が、被害を証言する子どもの精神的負担を減らすため、公判への付き添い犬の同伴を許可していることが6日、関係者への取材で分かった。裁判関係者によると、精神的負担の軽減を目的とした動物の同伴許可は異例という。

虐待を受けた子どもの刑事裁判を巡り、関東地方の地方裁判所が、被害を証言する子どもの精神的負担を減らすため、公判への付き添い犬の同伴を許可していることが6日、関係者への取材で分かった。裁判関係者によると、精神的負担の軽減を目的とした動物の同伴許可は異例という。

盛岡—新青森間

東北新幹線 東京間

月から防音対策工事に着手すると発表した。防音壁のかさ上げなどを進める。約7年間の工期を見込み、所要時間を最大約5分短縮する効果があるとしている。国が建設を決めた「整備新幹線」の区間で最高時速を引き上げるのは初めて。工事費は約120億円かかる見通し。

東北、秋田、山形、上越、



子判へさ犬レ月 刑裁可 付添大 子を巡り、公判に付き添い犬を足元に連れていたという。

1時間半の尋問の間、最終付き添い犬を足元に連れていたという。 女児側は精神状態を示す上申書や、出廷することで心的外傷後ストレス障害(PTSD)が悪化する恐れがあるとの担当医の意見を裁判所に提出。裁判所は、付き添い犬とともに女児の聴取を数回繰り返した。検察官からの申し出や民間団体による訓練記録も踏まえ、同伴入廷を許可した。

司法手続きでの子どもの負担軽減を巡っては、厚生

労働省や最高検は2015年、証言回数減らすため、児童相談所と警察、検察の三者が連携し、被害内容を聞き取る「協同面接」の導入を求める通知を自治体や検察に出した。一方、子どもが法廷で証言する際の軽減負担の取り組みは進んでいない。

安心感もたらず効果 児童精神科医・心療内科の新井康祥氏の話。虐待や犯罪被害を受けた子どもは第三者を信用できなくな

女児ら虐待を受けた子どもを支援する団体は「法廷で証言する子どもの負担軽減に付き添い犬が有効と分かった。制度化してほしい」と話した。

おり、今回の入廷許可で司法の場でも実績ができたと言える。これをきっかけに司法や児童福祉で子どもへのケアに付き添う犬の活用が進むことを期待する。安全性や犬の質確保のために育成費用がかかることから、補助制度など国には仕組み作りを進めてほしい。

ひたちなか市

砂押 清美(すなおし) 4日、53歳。表町11の5。葬儀9日午後1時、新光町の常陸海浜広域斎場。喪主は夫(はよと)。

日立市

佐藤 悦子(えつこ) 4日、54歳。大久保町。通夜8日午後6時、葬儀9日午後1時、滑川町のJA日立鞍掛山葬祭場。喪主は夫(しんや)。

茅根 一男(いちのね) 2日、91歳。田尻町。葬儀は近親者で行った。喪主は長男(まさとし)。

高萩市

喜山 瑞枝(きやま) 5日、68歳。高戸。通夜8日午後6時、葬儀9日午前11時。本町のあいばるホール高萩会館。喪主は

北茨城

酒寄 栄(さかえ) 5日、町神岡上。通夜時、葬儀9日午後、葬儀9日午後、南町のJA白浜。喪主は長男(かお)。

田村 浩(たむら) 9月28日、郷町栗野。葬儀行った。喪主は

好評受付中

安全・安心 震災による被害なし

山崎 山崎

常陸大

小林 弘(ひろし) 4日、葬儀は近親者で、喪主は長男(かお)。

土浦

岡部 秀子(ひでこ) 5日、田東2の9の19

不正申請 返金相談相次ぐ

付き添い犬 虐待や性被害を受けた子どもが、司法関係者や医療従事者らに被害を訴す際、心理的負担を減らすため寄り添った犬を指す。社会福祉法人「日本介助犬協会」と公益社団法人「日本動物病院協会」で育成・選定される。法廷に同伴した付き添い犬は、裁判所が訓練履歴を示す書類を基に攻撃性がないなど行動の安全を確認した上で、入廷を許可した。

「付き添い犬」に求められる条件

- 子どもを嫌がらず触れ合いに慣れている
- 慣れない場所でも落ち着いている
- 健康で攻撃性がないなど安全管理がされている
- 罰ではなく褒め言葉で育成されている



※日本動物病院協会の吉田尚子氏による



虐待を受けた子どもへの刑事裁判を巡り、公判「付き添い犬」のゴロルテントリバーは9月

被害証言に付き添い犬

虐待事件公判 子どもの負担軽減で異例許可

虐待を受けた子どもの刑事裁判を巡り、関東地方の地方裁判所が、被害を証言する子どもの精神的負担を減らすため、公判への付き添い犬の同伴を許可していただこうと、関係者への取材で分かった。裁判関係者によると、精神的負担の軽減を目的とした動物の同伴許可は異例という。

子どもが被害者となった事件では、司法手続きでつらい体験を話すことへのストレスが指摘され、負担軽減の取り組みとして注目される。入廷したのは専門機関で訓練を受けた「付き添い犬」として認定を受けた犬。国内では4頭が活躍している。

関係者によると、許可されたのは10代の女兒に虐待行為をしたとして、男が児童福祉法違反の罪で起訴された事件。女児は7月、心のケアのため触れ合いを続けていたゴールデンレトリバーを伴って入廷。当初は出廷自体を怖がっていたが、犬の同伴が許可されたことで証言を決心した。約1時間半の尋問の間、終始付き添い犬を足元連れ

関東地方の地方裁判所

ていただろう。女児側は精神状態を示す上申書や、出廷することでの心的外傷後ストレス障害（PTSD）が悪化する恐れがあると、担当医の意見書を裁判所に提出。裁判所は、付き添い犬とともに女児の聴取を数回繰り返した検察官からの申し出

心の傷 触れ合いでケア 高額な費用課題

裁判所への同伴入廷以外にも、虐待を受けた子どものケアに付き添い犬との触れ合いを生かす取り組みが各方面で始まっている。傷ついた心の保護と回復は、今後の成長にも影響するため急務。増加する被害を受け、民間団体の育成に期待が高まるが、高額の費用など普及には課題も残る。

「子どもの養育が明るくなる」。虐待を受けた子どもを支援するNPO法人「神奈川子ども支援センターつなぐ」の飛田桂舟弁護士（38）は触れ合いの効果をこう語る。

飛田弁護士は6、7月、児童相談所が保護していた子ども3人が付き添い犬3頭と触れ合える機会をつくった。どれも公益社団法人「日本動物病院協会」に適性を認められたり、社会福祉法人「日本介助犬協会」の訓練を受けたたりしている。

3頭のうち、裁判所で女児の証言に付き添ったのは6歳の雄のゴールデンレトリバー、ハッシュ。法廷で小さなひきまをかいて寝ていたハッシュの姿に女児は緊張が和らいだといい、その後「いてくれて良かった」と振り返ったという。

日本介助犬協会によると、子どものケアをする「付き添い犬」の育成には1頭あたり最大250万円の費用がかかる。児童虐待は増え続けており、被害を受けた子どもに対応するため、より多く育成したいが、予算が足りず、クラウドファンディングで資金を集めている。

活動を支援する帝京科学大の山本真理子講師（介在動物学）は「虐待を受けて人を信用できなくなった子どもは、ただ寄り添ってくれる付き添い犬を信頼し安心感を抱く。それが心の負担軽減になる」と効果を話した。

「濃厚接触」通知 相談県内は60人
 新型コロナウイルス対策のスマートフォン向け「接触確認アプリ」について、県は10月1日、感染者と濃厚接触した可能性を示す通知があったため、県の10保健所に相談した人が、把握できている9月9日までに60人いたと明らかにし

長野県が往来時の対応を呼び掛けている地域

往來の必要性を改めて検討を
 直近1週間の10万人
 当たりの新規感染者数
 50人以上
 東京、神奈川、沖縄

県民の割塩

19年度調査

県民の健康状態や生活習慣への意識などを把握する2019年度「県民健康・栄養調査」で、食塩を一日当たり「取り過ぎている」とされる人が男女ともに割前後に上ることが6日、分かった。県が速報値としてまとめた。

一日当たりの食塩摂取量は、20歳以上の平均値が男性11.3g、女性9.8g。男性8g未満、女性7g未満とする国基準量と比べ、男性は3.3g、女性は2.8g超過。国基準量を超えた人の割合は男性が90.3%、女性は87.1%を占めた。

20歳以上の一日当たりの歩行数は平均値で男性6498歩、女性5844歩。生活習慣病予防には一日8千〜1万歩が目標という。一方、身長

きの一部を停止している。希望者は受け付けているが、誰からの返金を明確にする

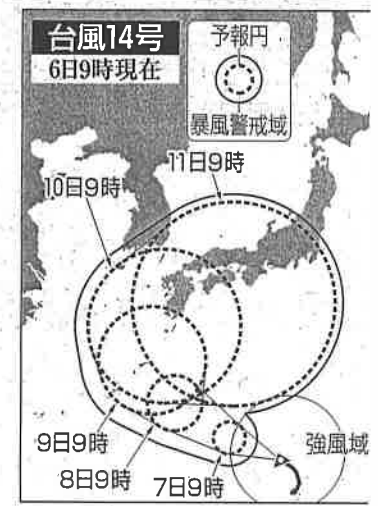
で不正が発覚した受給者には2割増しの額の返還を求めらる。173件のうち100件

審査委員長を務めたのは、僧侶で落語家の露の団姫(まるこ)さん。最優秀作について「顧客のジェンダーバイアス(性別に基づく偏見や差別)も女性の働きづらさの一因。社会全体の人権意識が変わらなければ、女性の就労環境も改善

ジェンダー川柳優秀

選した。谷口年江館長は「コロナ禍を受け、女性の家事育児負担が増えるなどジェンダーの不平等が顕在化した。作品を通じ、もう一度男女の平等について考えてほしい」と話した。

(西條朋子)



側390キロ以内と南西側280キロ以内は、風速15以上の強風域。

台風関連情報

読者コンシェル

【ニューヨーク共同】5日、分かった。演奏米国を拠点に活動する復帰のめどは立っていない。新型コロナウイルス感染症拡大による社会不安や景気低迷で、同市は治安が悪化してループに暴行され、右肩と腕の骨が折れるなど重傷を負ったことが、海野さんによると、仕事から一人で帰宅中

虐待事件公判で異例許可

被害証言に付き添い犬

虐待を受けた子どもの刑事裁判を巡り、関東地方の地方裁判所が、被害を証言する子どもの精神的負担を減らすため、公判への付き添い犬の同伴を許可していたことが6日、関係者への取材で分かった。裁判関係者によると、精神的負担の軽減を目的とした動物の同伴許可は異例という。



虐待を受けた子どもの刑事裁判を巡り、公判への同伴が許可された「付添犬」のゴールデンレトリバー。9月

子の精神的負担減らす

子どもが被害者となった事件では、司法手続きでつらい体験を話すことへのストレスが指摘される。関係者によると、許可されたのは10代の女兒に虐待行為をしたとして、

れ、負担軽減の取り組みとして注目される。入廷したのは専門機関で訓練を受け、「付添犬」として認定を受けた犬。国内では4頭が活動している。女兒側は精神状態を示す上申書や、出廷することでの心的外傷後ストレス障害(PTSD)が悪化する恐れがあるとの担当

男が児童福祉法違反の罪で起訴された事件。女兒は7月、心のケアのため触れ合いを続けていたゴールデンレトリバーを伴って入廷。当初は出廷自体を怖がっていたが、犬の同伴が許可されたことで証言を決心した。約1時間半の尋問の間、終始付き添い犬を足元に連れていたという。

付き添い犬 虐待や性被害を受けた子どもが、司法関係者や医療従事者らに被害を話す際、心理的負担を減らすため寄り添う犬を指す。社会福祉法人「日本介助犬協会」と公益社団法人「日本動物病院協会」で育成・選定される。法廷に同伴した付き添い犬は、裁判所が訓練履歴を示す書類を基に攻撃性がないなど行動の安全を確認した上で、入廷を許可した。

医の意見書を裁判所に提出。裁判所は、付き添い犬とともに女兒の聴取を数回繰り返した検察官からの申し出や民間団体による訓練記録も踏まえ、同伴入廷を許可した。司法手続きでの子どもは、女兒ら虐待を受けた子どもを支援する団体は「法廷で証言する子ども」の負担軽減に付き添い犬が有効と分かった。制度化してほしいと話した。

付き添い犬 虐待証言の子癒やす

今月一日、熱田社信壇内に「長し」と題し、社信壇内に「第一ブーシーヒン」熱田区
 かれた「あつた朔日市」でお披露目された。製品化に関わった
 同大学生や、施設利用者が販

つクロガネモチやヤブツバキの花の香りが売りという。施設利用者の男性(匿名)は「喜んでもらっている。ミツバチは、熱田神宮



関東の地裁 同伴許可

虐待を受けた子どもの刑事裁判を巡り、関東地方の地方裁判所が、被害を証言する子どもの精神的負担を減らすため、公判への付き添い犬の同伴を許可していたことが関係者への取材で分かった。裁判関係者によると、精神的負担の軽減を目的とした動物の同伴許可は異例という。

犬」として認定を受けた犬。国内では四頭が活動している。

関係者によると、許可されたのは十代の女兒に虐待行為をしたとして、男が児童福祉法違反の罪で起訴された事件。女兒は七月、心のケアのため触れ合いを続

虐待を受けた子どもの刑事裁判を巡り、公判への同伴が許可された「付き添い犬」のゴールデントレトリー

けていたゴールデンレトリバーを伴って入廷。当初は出廷自体を怖がっていたが、犬の同伴が許可されたことで証言を決心した。約一時間半の尋問の間、終始付き添い犬を足元に連れていたという。

女兒側は精神状態を示す

上申書や、出廷することで心的外傷後ストレス障害(PTSD)が悪化する恐れがあるとの担当医の意見書を裁判所に提出。裁判所は、付き添い犬とともに女兒の聴取を数回繰り返した検察官からの申し出や民間団体による訓練記録も踏ま

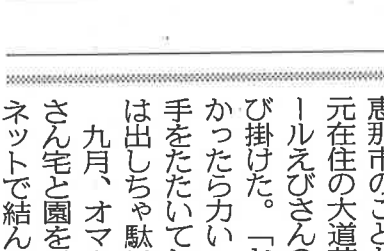
え、同伴入廷を許可した。

司法手続までの子どもの負担軽減を巡っては、厚生労働省や最高検は二〇一五年、証言回数減らすため、児童相談所と警察、検察の三者が連携し、被害内容を聞き取る「協同面接」の導入を求める通知を自治体や検察に出した。一方、子どもが法廷で証言する際の軽減負担の取り組みは進んでいない。

女兒ら虐待を受けた子どもを支援する団体は「法廷で証言する子どもの負担軽減に付き添い犬が有効かつあった。制度化してほしい」と話した。

「地域とのつながりを大事にしながら、続けていきたい」と話している。

名

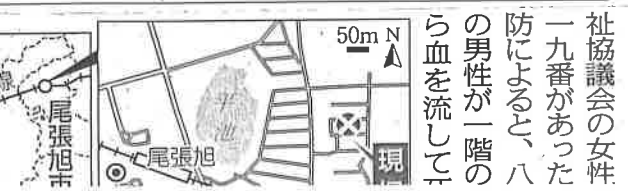


ネットに結んで大道芸

シヨウは拍手の練習で幕を開けた。岐阜県恵那市の子ども園。地元在住の大道芸人オマルル(匿名)が呼び掛けた。「おもしろかったら力いっぱい両手をたたいてね。大声は出しちゃ駄目だよ」九月、オマルルさん宅と園をインターネットで結んで大道芸

鑑賞会が開かれた。プッシュに響き合い、歓声があふいた。NPO法人芸ネットとして、新型コロナウイルス禍で苦しい状況にある子どもたちのために、新しい形の鑑賞会を開いた。プッシュに響き合い、歓声があふいた。NPO法人芸ネットとして、新型コロナウイルス禍で苦しい状況にある子どもたちのために、新しい形の鑑賞会を開いた。

住宅で高齢男性が 80歳住人か 尾張旭、頭か



事件現場の住宅を調べる警察官ら(6日午前11時32分、愛知県尾張旭市東大道町で)

社協議会の女性一九番があった防によると、八の男性が一階の血を流して

虐待を受けた子どもの刑事裁判を巡り、関東地方の地方裁判所が、被害を証言する子どもの精神的負担を減らすため、公判への付き添い犬の同伴を許可していたことが6日、関係者への取材で分かった。裁判関係者によれば、精神的負担の軽減を目的とした動物の同伴許可は異例という。

訓練を受けた付き添い



「付添い犬」の認定前に訓練士と話を交わす雄の「ゴールデンレトリバー」のハッシュ
2017年10月、日本介助犬協会主催

証言児童 法廷に犬同伴

関東・虐待事件公判で異例の許可

子どもが被害者となった事件では、司法手続きでつらい体験を話すことへのストレスが指摘され、負担軽減の取り組みとして注目される。入廷したのは青森県で訓練を受け、「付添い犬」として認定を受けた犬。国内では4頭が活動している。

関係者によると、許可されたのは10代の女兒に虐待行為をしたとして、男が児童福祉法違反の罪で起訴された事件。女兒は7月、心のケアのため触れ合いを続けていたゴールデンレトリバーを伴って入廷。当初は出庭自体を怖がっていたが、犬の同伴が許可されたことで証言を決した。約1時間半の尋問の間、終始付き添い犬を足元に連れていたという。

「付添い犬」に求められる条件

子どもを嫌がらず触れ合いに慣れている
慣れない場所でも落ち着いている
健康で攻撃性がないなど安全管理がされている

罰ではなく褒めて育成する訓練が行われている



※日本動物病院協会の西田尚子氏による

付き添い犬 虐待や性被害を受けた子どもが、司法関係者や医療従事者らに被害を話すため寄り添う犬を指す。社会福祉法人「日本介助犬協会」と公益社団法人「日本動物病院協会」で育成・選定される。法廷に同伴した付き添い犬は、裁判所が訓練履歴を示す書類を基に攻撃性がないなど行動の安全を確認した上で、入廷を許可した。

精神的負担を軽減

女兒側は精神状態を示す上申書や、出庭することで心的外傷後ストレス障害(PTSD)が悪化する恐れがあるとの担当医の意見書を裁判所に提出。裁判所は、付き添い犬とともに女兒の聴取を数回繰り返した検察官からの申し出や民間団体による訓練記録も踏まえ、同伴入廷を許可した。

司法手続きの子どもへの負担軽減を巡っては、厚生労働省や最高検は2015年、証言回数減らすため、児童相談所と警察、検察の三者が連携し、被害内容を聞き取る「協同面接」の導入を求める通知を自治体や検察に出した。一方、子どもが法廷で証言する際の軽減負担の取り組みは進んでいない。

司法の場で実績

児童精神科医・心療内科医の新井康祥氏の話、虐待や犯罪被害を受けた子どもは第三者を信用できなくなり、被害を大人に話すのを諦めてしまっていることが多い。医療現場では、犬との触れ合いが子どもに安心感をもたらす効果が確認されており、今回の入廷許可で司法の場でも実績ができたと言える。「これをきっかけに司法の児童福祉支援システムのケアに付き添い犬の活用が進むことを期待する。安全性や犬の質確保のためには育成費用がかかることから、補助制度など国には仕組み作りを進めてほしい。」

虐待事件公判で異例同伴

被害児童に「付添犬」

虐待を受けた子どもの刑事裁判を巡り、関東地方の地方裁判所が、被害を証言する子どもの精神的負担を減らすため、公判への付き添い犬の同伴を許可していたことが6日、関係者への取材で分かった。裁判関係者によると、精神的負担の軽減を目的とした動物の同伴許可は異例という。

子どもが被害者となった事件では、司法手続きでつらい体験を話すことへのストレスが指摘され、負担軽減の取り組みとして注目される。入廷したのは専門機関で訓練を受け、「付添犬」として認定を受けた犬。国内では4頭が活動している。関係者によると、許可されたのは10代の女児に虐待行為をしたとして、男が児童福祉法違反の罪で起訴された事件。女児は7月、心のケアのため触れ合いを続けていたゴールデンレトリバーを伴って入廷。当初は出廷自体を怖がっていたが、犬の同伴が許可されたことで証言を決心した。約1時間半の尋問の間、終始付き添い犬を足元に連れていたという。

裁判証言のストレス軽減

女児側は精神状態を示す上申書や、出廷することで心的外傷後ストレス障害（PTSD）が悪化する恐れがあるとの担当医の意見書を裁判所に提出。裁判所は、付き添い犬とともに女児の聴取を数回繰り返した。検察官からの申し出や民間団体による訓練記録も踏まえ、同伴入廷を許可した。

司法手続きでの子どもの負担軽減を巡っては、厚生労働省や最高検は2015年、証言回数減らすため、児童相談所と警察、検察の三者が連携し、被害内容を聞き取る「協同面接」の導入を求める通知を自治体や検察に出した。一方、子どもが法廷で証言する際の軽減負担の取り組みは進んでいない。

女児ら虐待を受けた子どもを支援する団体は「法廷で証言する子どもの負担軽減に付き添い犬が有効と分かった。制度化してほしい」と話した。

